

編集スタッフ  
 第4部会長：宮本誠三  
 編集長：田原妙子  
 編集委員：梶田真治  
 // 筒井弘次  
 // 千田俊治  
 // 奥田忠彦

# 葉知利書

HASHIRIGAKI  
 No. 53 '01.10.1

OIS 大阪府インテリア設計士協会  
 〒541-0059 大阪市中央区博労町1-6-14  
 TEL. 06-6262-1488 FAX. 06-6262-1553  
 E-mail [sss@jp-interior.or.jp](mailto:sss@jp-interior.or.jp)

## 第41回インテリア設計士資格検定結果

21世紀最初のインテリア設計士資格検定は7月14・15の両日、全国22都道府県で実施、大阪は南港の安田生命大阪アカデミア大講堂で行われた。全国および大阪の成績は右表のとおり。また、大阪の2科目合格者は次の47名であった。  
 (五十音順・1級は受験なし)  
 浅井梨香 浅野倫史 井口真規子  
 池口佳奈 池本吉隆 石本雅子  
 井谷恭子 伊藤弓絵 糸満英和  
 稲谷真理子 井村晃子 後野優子  
 浦 薫 片岡さおり 金岡千佳代  
 神谷多英子 川西順子 城戸昌紀子

	申請	合格	合格率	実 技			学 科		
				受験	合格	合格率	受験	合格	合格率
OIS	96	47	49%	84	73	86.9%	91	48	52.7%
全 国	680	369	54.3%	584	485	83.0%	625	381	61.0%

篠原里英 清水摩子 杉本昌代  
 瀬津歩 十河恵理 谷敬子  
 C.チョティン 淡本由加里 辻井奈津子  
 津村ひとみ 中川広太郎 中澤亮介  
 長谷育子 畑真由子 葉山生子  
 弘中涼子 藤田友紀 古川真美  
 古家雅子 堀容子 前河梨絵

前田泰洋 三瀬昇平 宮岡摩弥  
 宮田真弓 村社由紀子 森内喜子  
 山本真希 和気正英

なお、実技のみ合格者は28人、学科のみ合格者は3人あり、3年間、不合格科目の受験・合格により資格が取得できる。

## 証書伝達式・新会員歓迎会盛大に

左に掲載の合格者のうち23名の出席と、検定試験を受けた学校の先生方8名の参加を得、9月29日午後3時からATCにある大阪デザイン振興プラザ交流サロンで盛大に行われた。

今年の特徴は、岩川・大橋・播磨・田原理事らのアイデアにあふれた企画にあった。

足田会長の挨拶のあと証書と登録カード

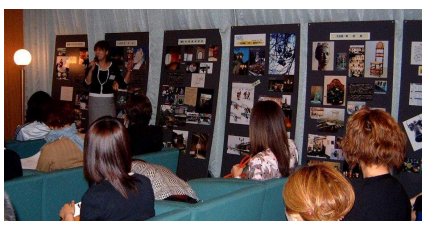


証書授与風景

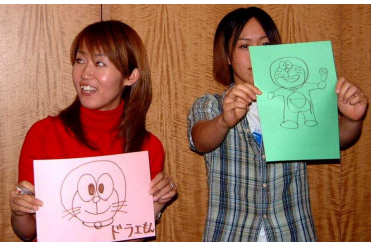
ド、記念品としてラベルピンが一人一人に手渡されたまでは昨年同様であったが、会場壁面に展示された年間行事を紹介するパネルに基づいて播磨理事が、OISがどのような集まりであるかを分りやすく説明した。

引き続き歓迎会に移ったが、例年の飲食だけではない新しい展開が見られた。新会員・先生方・理事すべてを6組に分けて対抗ゲーム行われた。記憶力を試すゲームで、一つはミッキーマウスやドラエモンを、イメージとしてどの程度記憶しているかを試すもの。それぞれのチームの代表が描き競った。もう一つは伝言ゲームで、原文の伝わり方で優劣をつけ、合計5ゲームの合計点により、用意された賞品が贈られた。

おおいに賑わい、予定を1時間近くオーバーして午後6時過ぎ、今後の催しへの参加を約束して散会した。



パネルによるOIS紹介



ドラエモンの絵を見せる新会員

### 後任に今西理事昇格

栢原常任理事が8月20日付で提出した辞任届を受け、9月29日の理事会でこれを承認、後任に今西理事が昇格した。

## 有意義な見学会3件・相次いで開催

### 大阪明治生命館：7月24日(火)

うだるような猛暑の中、大阪のビジネス街の中心、御堂筋・淀屋橋近くに建った、免震構造や最新空調設備のテナントビル「大阪明治生命館」を見学した。

株式会社中工務店設計部の合田氏が「ここからは地球と縁が切れているんです」という理解しがたいトークを交えながら、地階では積層ゴムによる免震装置の説明や、旧ビルの基礎を再利用した地下水への対策など、10階では、OBPのツインタワーなどの眺望を楽しみながら、二重構造サッシによる空気の流れを利用した省エネルギー冷暖房、空気層の圧力を利用することによるエレベーターホールの避難路の確保システムなどを説明してください。

交通至便の場所柄、仕事を抜けて参加した人も多く、これからのテナントビルのあり方を考えさせられる有意義な見学会であった。



1階ロビーで説明を聞く参加者



大阪明治生命館・東南面外観

### 大阪市中央公会堂保存・再生工事：9月1日(土)

大阪市中央公会堂(通称・中之島公会堂)の保存・再生工事現場の見学会が行われ、大阪と京都の会員29人が参加した。

同公会堂は岩本栄之助氏の私財の寄付により清水組が5年の歳月を費やし大正7年に完成させたもの。建物は、鉄骨煉瓦造に鉄筋コンクリートを混在させた構造で、地上3階、地下1階、復興式中準パラデヤン式(ネオルネッサンス式)と呼ばれる建築様式。その外観、内部意匠は大正浪漫の歴史的建造物として極めて重要であると評価されている。

プロジェクトの内容は、①歴史的建造物としての保存②創建時への復元的改修③本格的な耐震性能の確保などで、なかでも免震レトロフィットに特に興味を持った。免震構法は、耐震性能を飛躍的に向上させながらも、部分的な補強ですみ、意匠や機能性を損なうことなくレトロフィットさせることができる。

完成予定は2002年の秋で、中之島の水と緑に映える赤レンガの景観美として人々の憩いの場になるにちがいない。懐かしいオムライスで有名な地下食堂や創建当時の大集会室に再会できるのも嬉しいが、新たに設けられるサンクンカフェテラスも楽しみである。

工事完成時にもう一度見学会を予定しているので、今回都合がつかなかった人は是非参加されることをお勧めする。

余談として、中央公会堂は堂島川と土佐堀川に挟まれ中之島にあり、難波橋と淀屋橋のまんなかにある梅壇木橋渡ると行ける。近くには、府立中之島図書館や市立東洋陶磁美術館もあり、まるで映画のワンシーンを見ているような景色が広がる。散策を楽しんだり絵を描いたりするには絶好のスポット、是非一度訪れてみてください。



大集会室石膏柱頭部



ステンドグラス：“みおつくし”をテーマに鳳凰が左右から囲むデザインでオリジナルで現存する国内最大級

### アサヒビール「大山崎山荘美術館」とサントリー「山崎蒸溜所」：7月28日(土)

7月末の暑い日さしのなか、山崎の合戦で知られる天王山の麓に立つ大山崎山荘美術館と山崎蒸溜所の見学会に参加した。

「大山崎駅」から徒歩10分強、山荘に向かう径には季節の木々が植えられており、その葉陰で自然の涼しさが心地よく、特に楓が多いので、秋になればさぞ見事な紅葉が見られるものと思われる。車の通らない坂道をぐっと登るとスペイン風門灯の門があり、そこからは砂利敷きの広場となり、落ち着いたたたずまいの山荘が見えてくる。

大正時代の実業家、加賀正太郎氏が訪英の記憶を頼りに自ら設計した英国風山荘で、のちに、アサヒビールと京都府、大山崎町の協力で修復され、美術館として公開されるようになった。入り口のすぐ横に待合のような暖炉コーナーがあり、華紺のタイルに濃茶の柱や梁が映えている。



本館からの渡り廊下と地中の宝石箱の一部

全体に木や石、タイル、ステンドグラスを使い、装飾をふんだんに取り込んだ内装で、西洋風でありながら、大正モダンの懐かしさを漂わせている。

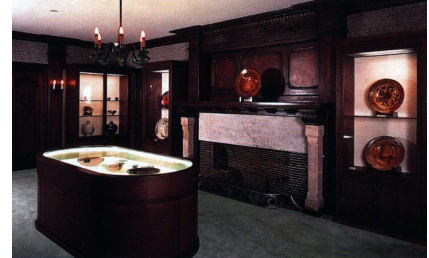
美術館としては、アサヒビール初代社長・山本為三郎氏のコレクションである陶器などが展示されており、柳宗悦の「民芸運動」の流れで、河井寛次郎、バーナード・リーチや中国、李朝、西洋陶器などを見ることが出来る。

3階の喫茶室とテラスでは、眺望を楽しみながらコーヒーやビールで休憩もでき、ひとときをゆっくりと堪能することができる。地中の宝石箱といわれる新館は、安藤忠雄の設計による陳列室で、モネの「睡蓮」やミロ、ジャコメッティなどが展示されている。

サントリー山崎蒸溜所は山荘から15分ほど歩くとたどり着けるところにある。清潔に管理された建物の中で、麦芽の仕込み、発酵、蒸留、貯蔵、瓶詰めまで行われている。

役目を終えた樽で作られた家具や、お酒飲みに嬉しいセミナー、コーナー・ショップもあり、ワンショット5,000円という、ここでしか飲めないウイスキーにも出会えた。大山崎は大阪市内から30分ほどの距離で、ちょっとした避暑地気分の日だった。

(田原 妙子・記)



山荘美術館展示室



睡蓮の咲く池

### 今後の予定 ★印は前号から予定変更しています。

- ★講座：OIS/Koizumi ライティング・アカデミー (10月25日から毎週木曜日7回)
- ★サークル：陶芸教室+アウトドアパーティー (10月28日・日曜日)
- ・サークル：ハイキング+写真(大和今井町 11月11日・日曜日の予定)
- ・カリグラフィー講習会「クリスマスカードを作ろう」(11月下旬～12月上旬)
- ・ポウリング+忘年会(12月上旬)
- ・サークル：スキー(14年2月予定)
- ★見学会：大丸木工工場・ショールーム(14年2月9日)
- ・講座：わかりやすいパースの描き方(15日～3月15日 毎週金曜日)
- ・サークル：テニスは毎月第1日曜日

Eメールによる通信を促進しています。あなたのメールアドレスをお知らせ下さい。

次号の「葉知利書」は2002年1月1日発行です。新年特集を組む予定ですが、皆さんからの投稿をお待ちしています。協会・会員に伝えたいこと、身近なニュースなどジャンルを問いません。写真などビジュアルな原稿を特に期待します。ただし、スペースの関係上全て掲載できるとは限りませんので、取捨選択は編集スタッフにご一任願います。